

シックハウス症候群

シックハウスの原因は
室内の汚染された
空気です。



特徴

室内空気汚染だけではなく、食品、医薬品など化学物質の経口摂取量の増加なども関係があるといわれています。ダニ・カビなどの生物的要因、ホコリ・ハウスダスト・たばこの煙など多くの要因があります。同一環境で生活している人でも、強い症状を訴える人もいれば全く症状の出ない人もいます。

原因

原因は多種多様、様々な要因が絡みあっています。私たちの身の回りにある日常生活用品から揮発する有害化学物質からの汚染に始まり、暖房器具から放散される空気汚染物質、換気不足、高湿度、結露などのほか、電化製品から発せられる電磁波も大きな原因と言われています。また、現代社会ならではのストレスなどの心理的要因も原因になると考えられています。

症状

シックハウス症候群の症状は個人差が大きく、非常に多岐にわたります。本人にしか自覚できない症状が多く、自律神経失調症・更年期障害・風邪・花粉症・精神疾患と間違われてしまうこともよくあります。

- 疲れやすい
- 無気力・だるい
- 集中力の低下
- イライラする
- めまいがする
- 不眠・いつも眠い
- 動悸・息切れ



シックハウスは終わっていない!!

2010年7月に完成した新議員会館でシックハウスが発生した。症状を訴えたのは民主党の桜井充参院議員で新しい議員会館に充満する化学物質のせいで体の具合が悪くなる「シックハウス症候群」を発症したとし、2010年8月4日の参議院予算委員会で「国の化学物質の対策は十分だったか」と問題提起した。参院側は、「国の指針値を超える濃度の化学物質は検出されていない」と説明(東京新聞2010年8月4日)。原因物質名は公表されず不明のままである。東京大学大学院の柳沢幸雄教授は、「揮発性有機化合物(VOC)の総量(TVOC)は、同年8月の時点で朝方は、902~2452 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ でシックハウスを起こすのに十分な濃度」と判断した。

2007年2月に北海道のA小学校で発生したシックスクール事例
2006年11月に竣工し、同年12月に学校環境衛生基準の6種の化学物質について室内空気中濃度を測定したところ、すべて基準値以下であった。さらに、農薬・可塑性を含む厚生労働省の指針値物質も基準値以下であった。2007年7月になって1-メチル-2-ピロリドンとテキサノールが高濃度に汚染しており、テキサノールは壁に使用された水性塗料に含まれていたことが判明した。その後、換気やベークアウト等の低減化対策により、これらの物質の室内空気中濃度は低下し、2008年4月に新校舎での授業が再開された。

大きなニュースにこそなっていないが、一般の住宅でも、シックハウス症候群は発生している。これらのことから、未規制化学物質によって惹き起こされるシックハウス症候群があるということ、すなわち新しいタイプのシックハウス問題が浮かび上がってくる。

シックハウスの発生源となる有害物質

- 台所洗剤 (カビ取り剤、漂白剤)
- 食品添加物 (チョコ、お菓子 (甘味料)、(保存料)、(発色剤))
- 殺虫剤 (ダニ用、殺虫)
- 洗剤 (柔軟剤、衣類洗剤)
- 掃除機 (防菌・防虫剤)
- 接着剤 (ボンド)
- 化粧品・香水
- 家具・カーテン (接着剤・原料)
- 開放型石油ストーブ